

1 学校教育目標

地域を愛し、学ぶ意欲に溢れ、国際社会において未来を切り拓く心豊かな児童・生徒を育成する。

- ・自ら学ぶ人
- ・共に生きる人
- ・健やかでたくましい人

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ○確かな学力の定着を図る学校（基礎基本の定着） ○心と体を育てる学校（行事や諸活動を通して心と体力を育成） ○開かれた学校（地域との連携）
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○自ら学ぶ人 <ul style="list-style-type: none"> ・常に自らを高めようと努力を惜しまない児童・生徒 ・基本的な学習習慣が身に付いている児童・生徒 ○共に生きる人 <ul style="list-style-type: none"> ・友を大切にし、社会性を身に付け、地域や家庭に感謝の気持ちをもってかかわることのできる児童・生徒 ○健やかでたくましい人 <ul style="list-style-type: none"> ・自らの心と体が常に健康であるように、生活を工夫・改善・向上させることのできる児童・生徒 ・相手の心を思いやることのできる豊かな心をもった児童・生徒
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎・基本の定着を目指す熱意と指導力のある教師 ○児童・生徒とともに汗を流し、喜びや悲しみを分かち合う教師 ○校長の経営方針の下、組織的に、連携して課題に取り組める教職員

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

本校は、幼少期より様々な生活経験を積んでいる児童・生徒が多く、基本的に入学時から基本的な生活習慣が身に付いている。そのため、落ち着いて学習に取り組める環境が整っている状況である。そのよさを生かしつつ、基礎学力の定着とともに思考力・判断力の育成を図っている。素地は、とてもいいものがあるので小中一貫教育校として教員集団が「共通行動」を心掛けながら児童・生徒の学力向上に努めている。

3年間続いている新型コロナ禍の中、児童・生徒は落ち着いて学習に取り組んでいる。令和4年度、足立区学力定着度調査の結果では、通過率小学部86.2%、中学部77.7%であった。5年間で、学力定着に向け「めあてと振り返りの徹底、中学部の放課後補充学習に全教員がかかわること、5・6年の定期考査・教科コンテストの実施」をしてきた。一昨年度から始めた5・6年定期考査及び教科コンテストの実施は、児童の主體的に学ぶ姿勢の育成とともに、教員の意識改革とスキルアップにつながった。今年度もさらに、よりよいものを追求していきたい。

また、若手教員のスキルアップが児童・生徒の学力向上には欠かせない。学年、学校内のOJT研修とともに、月1回のスキルアップ研修や管理職のよる研修を継続的に実施していく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	不登校児童、生徒の減少	○	○	○	○	○

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)		コメント・課題			達成度 ◎○△●	
<学力定着度調査> 小学部の通過率昨年度以上 中学部の通過率昨年度以上		令和4年度通過率 小 86.2% 中 77.7%							
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象・実施教科	頻度・実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
<小学部>									
継続	朝学習や国語の授業	国語	火・木 始業前 15分	・教科書や教材を使いながら、音読指導を実施する。 ・AIドリルを適宜活用して個に応じた指導をする。	・音読発表会の実施	・12月の学習発表会までに、全員が強弱、抑揚をつけて音読する。			

継続	放課後補充教室	<ul style="list-style-type: none"> 算数に課題のある児童 コンテスト基準点未満児童 	<p>週2、3回15分～30分</p> <p>月行事予定に設定。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 算数に課題のある児童を対象に個別指導を実施する。 AIドリルを適宜活用して個に応じた指導をする。 コンテスト再テストの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 各担任による確認テストの実施 補習⇒再テストでの検証 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度の区のテストの目標値を達成させる。 再テストの合格達成率90%以上。 			
継続	サマースクール	算数 ・各学年約15～20名程度。	夏休み期間中の10日60分間	<ul style="list-style-type: none"> 算数のつまずきのある児童に対して、小集団指導を実施する。 中学生ボランティアを募り、個別指導を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数の既習内容テストを再度実施による定着度の検証 	<ul style="list-style-type: none"> 夏休み終了後の再テストで、80%を目指す。 			
継続	家庭学習	全児童	毎日	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の復習や自学自習できる課題を学年で検討し、課題を与える。 「AIドリル」の活用をして、自学自習の習慣化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題提出状況調査 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の課題提出率100%を目指す。 			
継続	ICT機器の活用	全児童	毎日	<ul style="list-style-type: none"> 授業でICT機器を活用し、視覚情報を効果的に提示することで、児童により分かりやすい指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業観察 	<ul style="list-style-type: none"> 全教員のICT機器の活用 			
	国際コミュニケーション科の充実	1～4年生	年1単元	<ul style="list-style-type: none"> 異学年と合同の英語活動を実施し、英語を使ったコミュニケーション力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習と事後学習 	<ul style="list-style-type: none"> 一人最低1回以上の発表 			

		2年生	年1単元	・高校生との英語交流会を実施し、英語を使ったコミュニケーション力を高める。	・事前学習と事後学習	・一人最低1回以上の高校生とのやりとり			
		5・6年生	年1単元	・Tokyo Global Gatewayへの校外学習を必修とし、5～8年生までの4年間を通し英語を使ったコミュニケーション力を高める。	・事前学習と事後学習 ・6年生から5年生へのTGG 報告会	・一人最低3回以上のエージェントとのやりとり			
		5・6年生	年1単元	・台湾等の小学生とオンライン・オンタイムでの英語交流を図り、互いに異文化理解を深める。	・都国際交流コンシェルジュとの連携 ・事前学習と事後学習	・一人最低1回以上の現地小学生とのやりとり			
新規	国際コミュニケーション科の充実	6年生	年1単元	・既習の英語表現を最大限活かしながら、6年生と9年生が学びのゴールとして英語交流を実施する。	・事前学習と事後学習	・一人最低5回以上の9年生とのやりとり			
		6年生	年1単元	・8年生の職業体験（おしごとランド）を見学し、将来への見通しや職業観を高める。	・事前学習と事後学習	・夢デザインシートへのまとめ			

＜中学部＞									
継続	放課後補充教室	教科コンテストで基準点未満の生徒 週末課題未提出者 家庭学習ノート未提出者	15～30分程度、週2、3回実施。月行事予定に設定。	<ul style="list-style-type: none"> ・コンテスト練習を2週間程度設定。基準点未満の生徒は、補充教室参加⇒再テスト ・週末課題等の未提出者は課題の完成を徹底する。 ・AIドリルを適宜活用して個に応じた指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・補習⇒再テストで検証 ・課題の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・再テストの合格達成率 80%以上 ・課題提出率 100%を目指す 			
継続	サマースクール	各教科のつまずきのある生徒及び希望生徒	夏休み期間中の7日間	<ul style="list-style-type: none"> ・50分×2教科×2時間の既習事項の復習。 ・AIドリルを適宜活用して個に応じた指導をする。 	事前・事後テストの比較	<ul style="list-style-type: none"> ・得点が向上した生徒の割合を90%にする。 			
継続	家庭学習	全生徒	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自ら課題を設定し、粘り強く取り組める家庭学習の習慣を定着させ、主体的に取り組む態度の育成を図る。 ・「AIドリル」を活用し自学自習の習慣化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートを2冊用意し、毎週末交互に回収し点検する。 ・教科ごとに確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・提出率 100% 			
継続	情報活用能力の育成	全生徒	毎日	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末、インターネットなどの情報手段を活用して、学習に対する興味・関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業観察 	<ul style="list-style-type: none"> 全教科 全教員が週1回以上活用する。 			
新規	国際コミュニケーション科の充実	9年生	年1単元	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の英語表現を最大限活かしながら、6年生と9年生が学びのゴールとして英語交流を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習と事後学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人最低5回以上の6年生とのやりとり 			

重点的な取組事項－２		不登校児童・生徒の減少			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
不登校、登校渋りの児童生徒の減少		<ul style="list-style-type: none"> ・不登校、登校渋りの減少 ・児童生徒への支援を徹底。 (SC 面接、ケース会議、別室登校、SSW との家庭訪問、面接・電話相談等)			
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
QU の実施と活用	不登校、登校渋りの減少	<ul style="list-style-type: none"> ・QU 分析を学年+専科・養護で実施する。 分析結果から対応方法を学年で共通理解⇒共通行動を図る。			
CS 通級児童、生徒への対応方法を共通理解	年度当初の児童、生徒情報交換会の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・教員全体で対象児童、生徒の様子を共通理解して、対応方法の共通行動を図る。 			

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他（学校教育活動全般について）

